

# “小さなわが村を美しく！”を目指して =内の原区=

7月18日 新型コロナウイルス感染症まん延の中、海のない集落がこれまで毎年実施した、海の日行事として「小さなわが村を美しく」を合言葉に、国道266号線久玉峠から女淵まで約4キロにわたり、車窓から「ポイ捨て」されたゴミ・ペットボトル・空き缶拾い等の清掃を実施した。

前夜午後6時50分に防災無線で「明朝午前7時より国道清掃をする協力をお願い」の放送をしたところ、早朝より晴天の中、6時50分には区民36名(昨年より10%増)が参集し、区民の協力体制の盛り上がりを見ることができました。

拾い集められ集積されたゴミは約50キロ軽トラ1台分となり、毎年のことですが国道利用者の道德心の低さを痛感させられました。

作業前の朝礼では「交通事故防止」をお願いし、終了時は夏休み・お盆にかけてのコロナ予防対策をお願いして国道清掃を終了しました。

お陰様で心配された交通事故もなく無事終了することができ参加者の皆さんに御礼申し上げます。

内の原区長 小田銀治



# 久振だより

人口2627人  
1388世帯  
-第160号-  
発行  
久玉地区振興会  
発行日  
令和3年9月1日



## くたま市民学級中止のお知らせ

9月8日(水) 午前10時~予定していました『音楽療法でリフレッシュ』はコロナウイルス感染症まん延防止措置の適用を踏まえ、中止いたします。

# 敬老会の中止と敬老の日の祝品のお届けについて(お知らせ)

家族のため、住みよい久玉地区のため長年貢献いただいています75歳以上の皆様に敬老会を開催して敬意と感謝の気持ちをお伝えしたかったのですが、昨年引き続きコロナ禍の状況のなかでは中止するしかないと判断いたしました。

事情をお察ししてお許し頂きたいと思えます。

尚、ささやかではありますがお祝い品だけはお届けいたします。

今後とも人生を楽しみながら活躍されますことを願っています。

久玉地区振興会長 江良春隆



## 坂田家の家宝「河童の証文」

久玉町上揚の坂田和富さん方に昔から伝わる伝説である。

昔、久玉城があった当時、和富さんの先祖である堤伝治郎兵衛は怪力を買われて城の下使役で働いていた。ある日、殿様の白馬を引いて城下にある堤に差し掛かったところ馬が暴れだした。不思議に思って見ると、河童が馬の尻尾にぶら下がっている。そこで怪力の伝治兵衛は河童と相撲をとって2、3回振り回して捕え、馬屋の前に縛り付けておいた。ところが、いつの間にか綱を切って逃げた。

その後というものは、馬のくつわを切り取ったり、人を手玉に取ったりしてひどいいたずらが続いた。

しばらくして、御倉米を積み出すため、船着き場の見張り番に出た伝治兵衛が一休みしていると、例の河童がいたずらをされた。伝治兵衛は跳ね起きて河童の手をつかみ振り回したら、手がスッポリと抜けてしまった。河童が泣いて「手を返してください」と叫んだので、伝治兵衛は「今後絶対に悪さをしない」と証文と引き換えだと申し付けた。

河童は証文に平石(厚み5センチ・高さ60センチ・幅80センチ)と丸石2個及び楕円石と馬のくつわを差し出した。このとき伝治兵衛は「丸石が腐ったら証文は取り消すぞ」と言って、ひとつの丸石と手を海に投げ込んだところ、その後、河童のいたずらはぱったり止んだそうだ。

(昭和31年6月10日熊日新聞掲載記事より)



平石左上には河童の爪跡らしきキズがある